

第4回 電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 議事要旨

平成25年3月19日(火)

13:30~15:30

伊勢市役所 4-5会議室

1. 開会

(事務局)

- ・ただ今より、第4回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を開催します。
- ・配付資料確認。

(三重県 環境生活部長 挨拶)

- ・本日は第4回の協議会となります。皆様、お忙しい中、ご参集いただきまして本当にありがとうございます。開会にあたり一言お礼のご挨拶を申し上げます。昨年8月の協議会設立以来、行動計画の策定に向けて5つのWGを設け、具体的な内容の検討を進めてきました。半年という短い期間で、3回の協議会、WGに至っては延べ25回に渡り、お忙しい中お集まりいただき検討を重ねていただき、朴先生はじめ、会員みなさまには終始熱心なご議論をいただき心よりお礼を申し上げます。
- ・本日は、行動計画案である、「おかげさま Action! (案) ~住むひと、来たひと~」の議論をいただくということで一つの大きな節目となる、併せて、来年度以降、この計画に沿う形で電気自動車等を地域で使う、電気自動車等で観光できる、そういう低炭素なまちづくりを目指し、新たな一歩を踏み出す、スタートの日となると思っております。三重県としましても、事務局としましても、この「おかげさま Action!」がしっかり動くよう支援させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後になりましたが、この取組を通じて、伊勢市における低炭素まちづくりが進むとともに、この取組が県内地域に広がるよう祈念して、簡単ではありますが挨拶にかえさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(事務局)

- ・以降の会の進行は、朴会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(朴会長)

- ・皆さん、こんにちは。4回目の協議会となりました。先程、三重県環境生活部長からのご挨拶にありましたように、皆さんには半年というタイトな時間の中、WG、協議会で議論を重ねていただきまして、本当にいい形で議論が進んだと思っています。これをどういう風に大きく育てていくかが、今後の私たちの役割と思っています。今日は時間の余裕が少しあるとのことですので、決めることはしっかり決めて、その後、本音が話せるようなざっくばらんな場を設けたいと思っています。
- ・先日の日曜日、津でエネルギー・環境に関するシンポジウムが開催されそれに参加しました。

その中で、長野県飯田市で再生可能エネルギーのトップランナーとして活躍している、おひさまエネルギーファンドの代表がお見えになっていて、人口 10 万人という決して大きくない町で、一体どんなことが出来ているのか、そのコツは何なのか等、いろんな内容の話を聞きました。まず、産官学民の連携ができていのかどうかを尋ねたところ、ずばり、「市の姿勢が違う」とすぐに回答いただいたことはとても印象的でした。市長や副市長や幹部などのリーダーシップはいうまでもなく、職員ひとりひとりの姿勢が格別なのだということです。トップが走るには一緒に走る仲間がいなければなりません。

- ・ 式年遷宮を控え 1,000 万人の観光客を受け入れる人口 13 万人規模の伊勢市は、どういうふうにこのチャンスを活かすのでしょうか。窓口であり責任担当である市の姿勢、やるんだ、という意味があれば必ず成功します。私たちがこのように会議を重ね検討してきたことを市の実行している立場の方に理解していただき、一人でも多くの市民や観光客とともに歩むということを前面に出した時に、「おかげさま Action！」で描いていることが実現できる近道になるのではないのでしょうか。みんなで一致団結して、伊勢市のこの取組が本当の意味でのモデル事業になればよいと願っています。全体の協議会は今日が最後になりますが、皆さんのお力をお借りして、見える化できるような部分をしっかり作り上げていきたいと思えます。この会議の後、私は市長との会談を控えています。ここでの熱い議論を熱いうちに熱い形で伝えていきたいので、どうぞよろしくお願い致します。
- ・ 本日も実行書に基づき議事進行を行います。資料 1：おかげさま Action！について、事務局から説明をお願いします。

2．行動計画案（「おかげさま Action！」）について

（1）第 5 回までの WG における検討状況について

（2）行動計画（「おかげさま Action！（案）」）について

（事務局）

- ・ 資料 1 説明。

（朴会長）

- ・ 大変分かりやすく、詳細な説明をありがとうございました。この「おかげさま Action！」をより良い形でまとめたいので、皆さんのご意見をいただきたい。どのページ、どの項目、どの WG からでも構わないので、遠慮なくご意見をよろしく申し上げます。
- ・ まずは、私からいくつか事務局に確認をさせていただきたい。この取組を短期的には 3 年、中長期的に 10 年のスパンで考えるとのことである。5 つの WG においてそれぞれ論点、課題を整理してきた。前回の協議会でも話題にのぼったが、国（国交省、経産省）からの支援に際し、時間的な制約があった。それぞれの WG にまんべんなく目を配って進める作業も大事だが、せっかくのチャンスがあるのだから手をあげて、めりはりをつけることも重要だと思っている。その点に関して事務局としての考えを聞きたい。

(事務局)

- ・この事業は車両が走らないと何も進まない。デザインの募集については、事務局が支援することは既に決めているが、募集しても車両なければどうにもならないので、まず、国交省の補助事業である「超小型モビリティ導入促進事業」に手をあげたい。公募時期は5～6月あたりと聞いている。まず他の車両に先がけてコムスで実施を行いたい。公募の際に提出する計画書については事務局で整理して皆様に確認頂く形にしたい。
- ・経産省の補助金制度「次世代自動車充電インフラ整備」については、補助金総額1,005億円と聞いている。充電器の設置(工事費含)について、県の定めるビジョンにそっている場合は2/3補助され、そうでない場合は1/2の補助となる。ただ、県のみ、市のみでは広がりが見られないので、それぞれの事業者が活用することが重要だと考えている。また、近々、PHVかEVタクシーが1台走ると聞いている。詳細は旅客自動車協会にお伺いしたほうが良いと思うが、県は取組の支援を行っていきたいと思っている。

(朴会長)

- ・この協議会で協議すべき重要なことは2点あると思っている。それぞれのWGが協議会と照らし合わせつつ、何をどう具体的に進めていくか考えることはもちろん重要であるが、国の施策が時々刻々変わっていく中、事業者の方々がいかに積極的に補助金の利活用を進めていくかは別の話である。実際に限られた時間の中で、5月や6月とすれば、もう時間がない。積極的に手をあげていくにはどういうメカニズムで動くべきか、誰が動くのかが大事である。
- ・「おかげさま Action!」の内容は素晴らしく、これはこれで後ほど意見をいただくが、概ねこれでいくのではないかと思っている。
- ・とにかく今は、補助金の利活用をどうするかを早急に考える必要がある。伊勢市は日本で早くレジ袋有料化に取り組み、市内の全ての大手スーパー等で協定が結ばれている。先日、そこで得られたレジ袋収益金の中から300万円程度は超小型モビリティ事業に支出いただけることで許可された。個人ではなく協議会という組織で手を挙げるということなので、やれるところはどんどん積極的に動いていく、やる気のある事業者にどういうふうこれを促すか考える必要がある。
- ・国の補助金制度はどんなか。この時期を逃したらいつになるのか。
- ・タクシー会社の話もあった。自動車メーカーから車を借りて当面の間伊勢に置いて見える化するのか、どういうふうにするか、何が必要なのか、どこの課が関わるのか。そういうこともなんらかの形で進める必要がある。県がやるのか市がやるのか。庁内での話はどうなっているのか。まずは県からお話をお伺いしたい。

(事務局)

- ・国交省の補助金の公募については、おそらく5～6月にあると聞いている。予算が残れば年度内にもう1回あるだろうが、昨年度は年に1回だった。2月に公募があった分についてはH24年度の補正予算で行われており、参考資料として事業支援対象の選定結果を添付している。

(朴会長)

- ・参考資料の説明をお願いします。

(事務局)

- ・参考資料 説明。

(朴会長)

- ・市での動きがあれば教えて欲しい。

(伊勢市環境課)

- ・先程、朴会長のお話にあったように、伊勢市のレジ袋検討会は前回の協議会后すぐに開催し、コムス4台を購入するということで収益金の使用に同意いただいた。担当部署と連携しつつ、4月早々にレジ袋検討会を開き、資金使途についての具体的な協議を進めたいと考えている。
- ・経産省の充電器の補助金制度に関する県の説明会が3月28日にあるので、状況を確認したうえで商工会議所や地元事業者に参集いただき、どこに充電設備が必要かをまとめていきたい。これまでも伊勢市の動きが遅く関係各所には大変ご迷惑をおかけしたが、できるだけ早く準備を進めたいのでよろしくお願い致します。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。超小型モビリティは、自動車メーカー各社がモデルをつくっている。参考資料の別紙(裏面)に、超小型モビリティの導入促進事業の支援対象案件の一覧があるが、急すぎるといっていた割にはこのように他のところからは手があがっている。ということは、ずいぶん早くからこれらの団体は動いていたのか。それに関する情報はるか。

(事務局)

- ・このことについては、自動車メーカーの方が詳しいと思う。
- ・「EV・PHV タウン構想」をお持ちの自治体は、自動車メーカーと協働で先進的に取組んでおられるところもある。三重県はEV・PHV タウンとして選定されてないことから、協働者の対象とみなされてないのではとの理解である。実際、三重県としては、まだやっと取組みが始まったところである。
- ・コボットは九州の会社で、そう数は多くはないものの松山でも走っているときいている。
- ・トヨタのコムスは既に販売されているので導入しやすい。日産、ホンダの市場販売については、まだこれからとのことである。

(朴会長)

- ・大手自動車メーカーの方が揃っておられる。車は走ってなんぼと思う。次回の公募でも時間が足りなくてダメでしたとなるのはよくない。

- ・なにか参考になるような情報をいただくとありがたい。

(トヨタ自動車株 流通企画部 課長 直井氏)

- ・河合が欠席なので代理で出席している。ご期待にそえるような回答はできないが、超小型モビリティの導入促進事業の支援対象案件の一覧表にあるように、セブンイレブン・ジャパンで280台とか豊田市低炭素社会システム実証推進協議会で100台とか大きな台数が入っているが、これはいずれもコムス発売後すぐに実証実験、あるいはセブンイレブンの場合は、高齢者向けの宅配サービス事業として既にスタートしていたものである。動きが早いというよりは、かなり前から進められていた事業で、補助事業があると聞きすぐに応募されたものである。
- ・伊勢市でどうかという件については、協議会設立前に私どもが県に訪問させていただいた際、基本的には県や市に期待しないで欲しい、参画する事業者、地元で進めていくと聞いていた。前回の協議会で河合からも、他県の事業者からの提案だけではだめで、地元から手をあげていただきたいという指摘をしたと思う。特にEV、PHV等は高価なので新規で購入するのは大変である。しかし、時を経れば、いずれ買い替えのときがくる。その際はEV・PHV等を1つ頭に入れていただきたい。今は補助金が国から出るが、普及が進むとそれもなくなる。今は導入しやすい時期なので、1台でも導入いただくようご検討いただきたい。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・三重県からは2月に間に合わせようということで当初ご相談をいただいており、急げばなんとかなったかもしれないが、地元の理解や準備を考えて5月まで延期した形である。
- ・導入に当たっての一番大きい問題は費用である。先程、レジ袋収益金の方から300万円の援助があると聞いたが、補助されない半分の費用、あるいは充電器はどこかが負担する必要がある。そういった部分がクリアになると普及促進しやすいと感じている。

(朴会長)

- ・事業者に協力していただきたいことがある。神奈川ではEV車のモニター制度があり、モニターになればEV車に乗られると聞いた。例えば、伊勢市をモデル地区にしてもらい、見せる、ふれてもらう、乗ってもらうということは出来ないか。伊勢がもつブランド力を活用すれば、EV車PHVへの考え方も変わってくるのではないか。そこへの協力はお願いできるのではと思うがいかがか。

(日産自動車株式会社 西片氏)

- ・国交省の超小型モビリティ導入促進事業の件であるが、協議会がないと申請できないとか、EV・PHVタウンとして選定されていないから遅れが出ているわけではないと思う。
- ・弊社はかなりの自治体・事業者からお声かけいただいた。弊社のニューモビリティコンセプトは新規格の超小型モビリティでまだ正式販売されていない。国交省は、この軽自動車でもバイクでもない新しい革新的な規格を進めアジアに広げたいという思いがあるようである。

それもあり、正式販売されてないながら、簡単な申請手続きさえすれば特定の地域であれば自由に走行できる。

- ・弊社のニューモビリティコンセプトとコムスの違いを一覧にした資料を配布している。弊社のものは二人乗りだが、コムスは原動機つき自転車なので一人乗り。また、馬力、航続距離もコムスの2倍となっている。
- ・かなりの自治体・事業者からお声かけいただいたにもかかわらずお断りをした理由は、価格が決まっていないこと、国内で生産していないため台数の確保ができないことからである。しかし、国交省の支援対象案件一覧にあがっているのは、先程のトヨタと同様、ソフトバンクや沖縄ロングステイとはかなり前から話を進めていた。
- ・5月か6月頃には価格を決め台数もある程度確保できる方向で動いている。ただ、弊社は販売ではなくリースかレンタルで実施する予定である。価格はおそらくコムスより高額になる。新しい規格なので興味もってもらえると期待している。
- ・モニター制度は、リーフで実施している。かなり積極的に進めているが、知らない方の方が多い。三重日産で対応している。ただし超小型モビリティのモニターに関しては個々でのご相談になる。
- ・先程トヨタのご意見にあったように、本日の協議会も地元の方の欠席が多い印象である。朴会長おっしゃられるように事業者の努力のみならず地元の積極的な連携がないと難しいと感じている。充電器も補助金が2 / 3出るが、では残りの1 / 3は誰が出すのか。そのへんの後押しを協議会、協議会メンバーから進めていただけるとありがたいと感じている。

(本田技研工業株式会社 開発室 ブロックリーダー 小木氏)

- ・弊社も熊本県でマイクロコンピュータープロトタイプを20台申請していただいた。こちらは日産と状況が似ている。EV・PHVタウンとして認定されている埼玉県、熊本県とは結びつきが強く、3年以上前から実証実験を進めていたこともあり、補助事業の話が急に出てもすぐに準備ができた。
- ・ただし、トヨタや日産との違いは、台数の確保面である。弊社の場合は東京モーターショーで出したコンセプトカーを手作りで実車化、最低限しか準備できないことから、今回は熊本県の申請にのみ参加する形をとった。
- ・モニターは、弊社は埼玉県で実施した。こちらはあくまで実証実験で、弊社の研究所が所有しているフィットEVを使用し、例えば主婦の方3人にお貸しして、タイムズやイオンとかと協働して進めている。期間は1ヶ月。車両は使いまわしでやっている。埼玉県もEV・PHVタウン構想があり、さいたま市との「E-KIZUNA Project (イー・キズナ・プロジェクト)」の一環で実施している。

(三菱自動車工業株式会社 EV国内推進部部長付 橋下氏)

- ・弊社は超小型モビリティを手がけてないので、それに関するコメントはない。
- ・モニターの件は、一時キャンペーンでモニター募集したことある。地域を限定し旅館組合やJTBさんと協働で旅館の方に使ってもらったこともある。地域、地域でやっている。全部

メーカーが負担するというより、JTBや地元の方と一緒にやっていくという形で進めている。

(朴会長)

- ・「おかげさま Action！」は時間のかかるもの、即対応できるもの両方入っている。もう少し意見をいただいたのち、まず案を決めさせていただく。せっかくなので超短期的なこととして、5～6月の補助金申請を見込んだ方向性、戦略、考え方を整理していきたい。
- ・超小型モビリティに関しては、実証事業等が終わって市販されているものとそうでないものがあり、行政としてはどうすべきか悩むだろう。安全面を含め懸念もあるだろうと思う。
- ・だからこそ、事業者が理解を示し、補助金をもらえるならやろうという方がどのくらいいるのか。これについては、地元の受け皿となる伊勢市が市内の横のつながりを深め協力体制を構築するよう努力が必要である。購入、モニター、リース、レンタルなど選択肢がある。時間がない中でどれだけやるか、市として早急に決めて動いてもらいたい。
- ・今のところトヨタのコムスを4台買える。日産やホンダ三菱の市販車をどう購入するか呼びかけいただきたい。市販されていないモデルをモニターとしてレンタルできるなら、その見える化の効果も期待する。これについては、今の話をきく限り日産が有力と思う。ホンダは事情が許せば協力いただきたい。三菱も超小型モビリティは手がけていないが、継続して協力いくという形でお願ひできればと思う。
- ・まず見える化、即戦力として動けるところはどこなのかを踏まえて論点整理した。早急に市がリーダーシップとして動いて欲しい。
- ・先程、県の説明でEVタクシーを購入するという話があった。それは既に決まっている話なのか。あるいはまだ検討中なのか。

(三重県旅客自動車協会 専務理事 景山氏)

- ・おそらく購入する。伊勢市でEV等でのカーシェアリングやレンタカー事業が進むので、タクシー事業者としても1台でも導入して欲しいとのお話をいただいた。ただ、充電施設のこともあるので、導入は早くて10月くらいになるだろう。
- ・購入に際しては、国交省の補助金ではなく、伊勢市、事業者からの寄付をいただくことになる。その方が何かと都合がよい。何台になるか分からないが、協会としても事業者からご協力いただきながら進めたいので、今後ともよろしくお願ひ致します。

(朴会長)

- ・大変ありがたい話をいただきました。どうかよろしくお願ひいたします。
- ・「おかげさま Action！」に関すること、5月6月の国の補助金から購入できるという話、事業者の努力でやっていくということも見えてありがたいと感じている。
- ・「おかげさま Action！」の取組は3年スパンで考える事業でもある。WGで早急に進める必要のあるものが見えてきた。例えば、レジ袋収益金でコムスを4台買うとすれば、すぐにデザインが必要になる。デザインWGでどうするか早急に決めていく必要がある。

(事務局)

- ・車両ごとにデザインを決めるのではなく、汎用性のあるものを考えている。先行作業として急ぎ進めたいが、それでもスケジュール的には10月頃にはなる。

(朴会長)

- ・少しスピードアップして、より具体的なことをWGで考えていただきたい。いつどうするか。実際に走るようになったとき充電はどうするか、どこまで走らせるべきか。そこは車種によって違うのではないか。
- ・「ショーケース化」という表現が分かりにくいので変更するとのことであるが、ショーケースはショーケースである。個人的にはこの表現は残して欲しい。駅を降りたらEV車が並んでいる。こういう条件で走りますよというような意味ではショーケースがあってもよいのではないか。それもどこのWGが主になって考えるか分からない。どこでどうするかを早急に考えて欲しい。
- ・安全性やスピードの問題も市が積極的にコミュニケーションしつつ進めて欲しい。役割分担も具体化してきたのではないか。
- ・「おかげさま Action！」は案であるが、その都度改正していくのか、概ねの案として認めるのか。最終的にどのような形でご了承を得ればよいか教えて欲しい。

(事務局)

- ・概ねという形がのぞましい。スケジュールは変更していくので調整していきたい。

(朴会長)

- ・案はとる。その上でバージョンアップさせていくという形でよいか。

(事務局)

- ・それでよろしくお願い致します。

(朴会長)

- ・「おかげさま Action！」について、修正や検討事項があればその都度バージョンアップさせていく。この案をとるということでご了承いただいでよろしいか。

～ 異議なし～

(朴会長)

- ・ありがとうございます。では、案をとらせていただけたので、のちほど市長に説明させていただく。

3．規約の改正について

(事務局)

- ・資料3 規約 説明

(朴会長)

- ・ありがとうございました。ただいまの改正案についていかがか。
- ・会費に関しては、会長が管理をするのか。

(事務局)

- ・通帳の預かりは事務局で行う。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。非常にきれいに整理頂いた。会長が管理をさせていただく。

4．その他

(事務局)

- ・来年度予算資料 説明

(朴会長)

- ・ありがとうございます。県の厳しい財政の中、動いていただいたことに感謝する。これが更に大きな成果につながればよいと思うので今後ともよろしくお願い致します。

5．閉会

(朴会長)

- ・では、これをもって、第4回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上